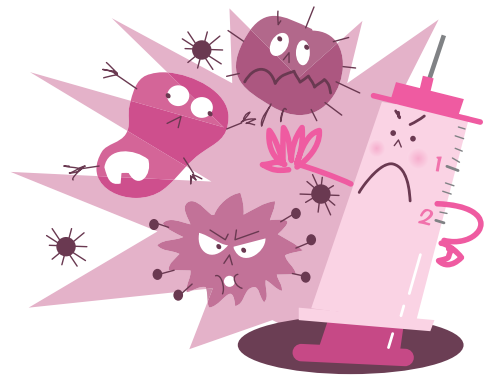


予防接種費用を助成

市では、任意予防接種である高齢者肺炎球菌ワクチンの接種費用の一部助成を行っています。また、同じく任意予防接種だったヒブワクチン・小児用肺炎球菌ワクチン・子宮頸がん予防ワクチンは、4月1日から定期予防接種になりました。



高齢者肺炎球菌 ワクチン予防接種

肺炎球菌が原因で起こる、肺炎などの感染症を予防するワクチンです(全ての肺炎を予防するわけではありません)。接種することで、肺炎による入院や死亡の危険を減らすことが期待できます。

対象Ⅱ次のいずれかに当てはまる人

- 接種日当日65歳以上の人
- 60～64歳で、心臓・腎臓・呼吸器の機能に日常生活が極度に制限される程度の障がいを持つ人
- ヒト免疫不全ウイルスにより免疫の機能に日常生活がほとんど不可能な程度の障がいを持つ人

助成額Ⅱ接種費用の額の2分の1

(上限4,000円)。助成額との差額を医療機関に支払ってください。生活保護世帯は全額が助成されます

注意事項Ⅱこのワクチンは、健康な人では5年間は効果が持続するとされています。過去に接種したことがある人は、接種前に接種間隔の確認をしてください

ヒブワクチン予防接種

脳や脊髄を覆っている髄膜に細菌が感染して炎症が起こるのが細菌性髄膜炎です。乳児が感染することが多く、死亡したり重い後遺症が残ったりする確率が高い、非常に恐ろしい病気です。この原因菌の一つであるHib(b型インフルエンザ菌)への感染を予防するワクチンです。

接種開始年齢により接種回数異なります。

対象Ⅱ月齢2カ月以上5歳未満
助成額Ⅱ全額(窓口での費用負担はありません)

小児用肺炎球菌 ワクチン予防接種

肺炎球菌は、多くの子どもの鼻

や喉にいる細菌で、体力や抵抗力が落ちた時期などに肺炎・中耳炎・敗血症・細菌性髄膜炎などを引き起こします。

これらのうち、特に重い症状を引き起こす病気を予防するためのワクチンです(肺炎球菌による全ての病気を予防するわけではありません)。

接種開始年齢により接種回数異なります。

対象Ⅱ月齢2カ月以上5歳未満
助成額Ⅱ全額(窓口での費用負担はありません)

子宮頸がん予防 ワクチン接種

子宮頸がんは、性交渉などによってヒトパピローマウイルス(HPV)に感染することで、数年～十数年後に発症します。HPVに感染しても大抵はすぐ治りますが、まれに長い間感染が続き、がんになります。HPVのうち、子宮頸がんの原因として報告の多い2種類のウイルスを予防するワクチンです。

接種回数は、最初の接種から6カ月の間に間隔を空けて、計3回です。

対象Ⅱ小学6年～高校1年生に当たる年齢

助成額Ⅱ全額(窓口での費用負担はありません)

市内の医療機関で 個別に接種を

高齢者肺炎球菌ワクチン

任意予防接種の個別通知は行いません。接種を希望する人は、かかりつけ医に相談の上、健康増進課へ申し込んで、事前に診察を受け取ってください。

ヒブワクチン・小児用肺炎球菌ワクチン・子宮頸がん予防ワクチン
ヒブワクチン・小児用肺炎球菌ワクチン・子宮頸がん予防ワクチンは、4月1日から、任意予防接種から定期予防接種になりました。対象となる人には、市から通知します。医療機関は健康増進課ホームページ(<http://www.city.narita.chiba.jp/sisei/sosiki/kenko/std0023.html>)または同課にお問い合わせください。

市外の医療機関での接種を希望する人は、事前に健康増進課保健福祉館内で手続きが必要です。

※くわしくは健康増進課(827・1111)へ。